

「道徳の時間」学習指導案

熊野町立熊野第三小学校
教諭 小川 美恵子

- 1 主題名 いっしょにあそぼう【2－（2）思いやり・親切】
- 2 資料名 「ぐるぐるまわれ」（出典 2年生のどうとく 文溪堂）
- 3 学 年 第2学年2組 男子 14名 女子 14名 計 28名
- 4 日 時 平成24年7月17日(火)
- 5 主題設定の理由

○ 本主題は、学習指導要領第1学年及び第2学年の指導内容2－（2）「幼い人や高齢者など身近にいる人に温かい心で接し、親切にする」を基に設定した。他の人の接するときの基本的姿勢に関するものであり、相手に対する思いやりや親切な心を持ち実践できる児童を育てようとする内容項目である。「親切」とは相手の立場や気持ちを推し量り、思いやりいたわる温かい心から生じることである。また、人と人との温かい結びつきをつくり、円滑な人間関係を築くうえで欠くことのできないものであるといえる。この時期の児童にとって、相手の立場に立ったり、相手を思いやったりして考えることはなかなか難しいことである。自分のことに夢中であったり、人が困っていることに無関心であったりなど人にまで思いがいかない場合も多い。そこで、困っているときに親切にされることがどんなにうれしいことかを考えさせ、困っている人がいたら、温かい心で接し、親切にしようとする態度を育むことが大切である。

○ 本学級の児童は、道徳アンケートにおいて、「思いやり・親切」がとても大切であると考えている児童が92%いる。その理由として、親切は優しい心が増え、みんなを幸せな気分にはせると考えている児童が半数おり、中には、親切をすることで自分が気持ちよくなると感じている児童もいる。また、親切はよいことだから、親切にしなくてはいけないと考えている児童も約30%おり、しなければ叱られる、嫌われると考える児童もいる。「まわりの人に親切にしている」の項目に、「とても」と答えた児童は約30%で「思いやり・親切」は大切であると思っけていても、実践できていない児童が多いことが分かった。「思いやり・親切」が大切である、親切にしなければならないと感じる児童が多いこと、また、親切をしたりされたりすることのよさを感じている児童も多い。

○ 本資料は、主人公しず子が、①引っ越しをしたばかりで友だちができず、寂しそうに外を眺める場面②決心して遊びに「入れて」と言ったのに、冷たく拒否される場面③みっちゃんのはたらきかけでやっと友だちができ、楽しそうに遊ぶ場面の三つの場面で構成されている。仲間に入れてもらいたくてもなかなか行動に出せない気持ちや、やっと言えたのに拒否された悲しみ、それを見て優しく接してくれた温かい心に触れたうれしさなど、主人公の心の変容を通して、親切にされることの喜びが分かる資料である。

指導に当たっては、役割演技を取り入れながら、主人公しず子の心の動きを中心にしてねらいに迫りたい。しず子がみっちゃんの働きかけにより、みんなの仲間に入って楽しく遊ぶことができた喜びを実感させ、親切にされる立場からの視点で、「思いやり・親切」の道徳的価値の理解を深めていきたい。第1回検証授業で、親切にする立場から、親切にすることのよさを学習しているので、今度は親切にされる立場から、困っているときに親切にされることのありがたさを、しず子の心の変容を通して実感させたい。さらにそのよさを広げるために、自分も相手のことを考えて、積極的に親切にしようとする態度を育てたい。体験活動を生かす方法として、導入において、縦割り班活動での活動の様子を掲示する。高学年に優しく声をかけてもらったなど、自分たちのことを思いやって行動していた上学年とのかかわりを想起させたり、児童が役割演技をする際も、縦割り班活動での体験が意識できるようにしたりする。また、展開後段で、困ったときに親切にされることのうれしさを想起する際に生かすなど、自分の生活と重ね合わせて考える際に生かしていきたい。また、後の体験活動に、今までの道徳の学習を生かして、小さな子に温かい心で接しようとする道徳的实践ができる場として、保育園児との交流会を仕組む。

思いやりの心を育成する道徳学習プログラム		
時期	体験活動と道徳の時間の関連	児童の意識の流れ
5月 第1・2週	①<学校行事>「春の遠足」 2年生合同で遠足に出かけ、共に遊んだりお弁当を食べたりして、仲良くなる。 <生活科>「学校案内」 1年生に自分たちの学校を案内し、何をする教室か、わかりやすく教えてあげる。 ②<学校行事>「町たんけん」にでかけよう」 町探検に出かけ、町の人と接したり、町のよさを発見したりする。	① ・1年生は、説明をきちんと聞いてくれてうれしいな。 ・1年生のことを考えて行動するのは、大変だ。 ② ・自分たちが通った保育園だ。懐かしいな。 ・町の方は親切だな。 ・たくさん公園がある町だったんだな。
	③<道徳の時間> 相手を思いやって（親切にする立場） 2ー（2）思いやり・親切 「われたぎゅうにゅうびん」（小学校 心の元気Ⅰ） さち子を思いやって親切にするけい子の気持ちを考えることを通して、親切にすることのすばらしさを感じ、親切にしようとする心情を育てる。	③ ・困っている人のことを先に考えて行動できることはすごいな。親切にすることはいいことだな。
6月 第5週	④<児童会活動> 6/29（金）（親切にされる体験） 「縦割り昼食会と遊び」 縦割り班で昼食を食べたり、自分勝手な行動をせずに、遊んだりして仲良くなる。	④ ・お兄さん、お姉さんが、優しくしてくれてうれしいな。 ・自分たちができる遊びを考えてくれてるな。
	⑤<道徳の時間> いっしょにあそぼう（親切にされる立場） （本時）2ー（2）思いやり・親切 「ぐるぐるまわれ」（文溪堂） みっちゃんのおかげで、みんなと楽しく遊ぶことができたしず子の気持ちを考えることを通して、困っているとき親切にされることのうれしさを感じさせ、自分も友だちや身の回りにいる人に、親切にしようとする態度を育てる。	⑤ ・困っているときに声をかけてもらうことはすごくうれしいことだな。困っている子がいたら、優しく声をかけよう。
	⑥<特別活動>（親切にする体験） 保育園児との交流 「いっしょにあそぼう！」 自分より小さな子に優しい気持ちで接し、仲よく遊ぶことができる。	⑥ ・小学校は楽しいよ。入学したら仲よくしよう。 ・順番をゆずってあげよう。 ・小さな子にはやさしくしよう。
小さな子やみちかな人に温かい心で接しよう		

7 本時のねらい

- みっちゃんのおかげで、みんなと楽しく遊ぶことができたしず子の気持ちを考えることを通して、困っているとき親切にされることのうれしさ感じさせ、自分も友だちや身の回りにいる人に、親切にしようとする態度を育てる。

8 学習指導過程

過程	学習活動	主な発問と児童の心の動き (◎中心発問)	◇指導上の留意点・支援 ☆評価の観点
導入	1 縦割り班活動で上学年に親切にされたことを想起させる。	○お兄さん、お姉さんから親切にされてうれしかったことはありませんか。 ・優しく声をかけてくれた。 ・順番を譲ってくれた。	◇縦割り班活動の様子の写真を掲示し、想起させ、親切にされたことを振り返り、資料への関心と意欲を持たせる。
展開前段	2 資料「ぐるぐるまわれ」を読んで登場人物の気持ちを考える。	○「つまんない。」と言っているしず子はどんな気持ちだったのでしょうか。 ・知っている子がいないから遊べない。 ・外で遊んでいる子は、鬼ごっこをしていて楽しそうでいいな。 ○玄関を出るとき、胸がどきどきし始めたしず子はどんな気持ちだったでしょう。 ・うまく話しかけられるかな。 ・仲間に入れてくれるかな。 ・大丈夫、きっと仲間に入れる。	◇場面絵を提示して、引越してきたばかりで、友だちがいない寂しいしず子の気持ちに共感させる。 ◇場面絵を提示して、一緒に遊んでももらえるだろうかと不安になりながらも勇気を出して玄関を出ていくしず子の気持ちに共感させる。
	3 しず子の心の変容を、役割演技を通して考える。	○やっとの思いで「入れて」と言ったのに、知らない顔をされたしず子は、どんな気持ちだったでしょう。 ・みんなと遊びたかったのに。ひどい。 ・声をかけなければよかった。 ◎みっちゃんのおかげで、みんなと手をつないでぐるぐる回って遊んでいるしず子は、どんな気持ちだったでしょう。 ・みんなと遊べてうれしい。 ・みっちゃんのおかげだ。ありがとう。 ・困っているときに、親切にされるのはうれしいな。	◇役割演技を取り入れ、がっかりした自分のことを気にかけて仲間に誘ってくれたみっちゃんへの気持ちや遊んでいるときの気持ちを考えさせる。（役割交代をし、全員が親切にされるしず子の気持ちを実感できるようにさせる。） ☆みっちゃんの温かい心に触れたしず子の喜びを感じ、困っているときに親切にされることがどんなにうれしいか実感している。
	4 自分の生活を振り返る。	○困っているときに、親切にされてうれしかったことはありませんか。 ・縦割り昼食会でお弁当箱を落としたとき、お姉さんが掃除してくれた。 ・転んでけがをしたとき、保健室へ連れて行ってくれた。	◇日々の生活や縦割り班活動を思い出し、温かい心で接してもらったことを思い出し、親切のよさを考えさせる。
終末	5 心のノート p 42「親切のふしぎ」の作文を読む。	○先生が読む作文を聞きましょう。 ・自分よりも小さい子に優しくしたいな。 ・困っているときに親切にされるとうれしいな。困っている子がいたら、優しく声をかけよう。	◇「第23回作文コンクール入賞作品『親切のふしぎ』より」の作文を聞くことで、ちょっとした親切でも喜んでもらえることを押さえ、次の保育園児童との交流会を知らせ、意欲をもたせる。